

豊丘史学会総会講演会



2月10日(土)



第757号

発行人 ● 豊丘村公民館
館長 市澤和宏
編集人 ● 長野県下伊那郡
豊丘村公民館報
編集委員会
0265-35-9066
印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村

(3月1日現在 ※外国人を含む)
男 3,271人
女 3,292人
総人口 6,563人
世帯数 2,243戸

新しい多勢子像を求めて

二月十三日(金)に史学会の総会講演会が行われました。講師は飯田市美術館、博物館専門研究員の青木隆幸先生です。「多勢子の文久2年間8月」新しい多勢子像を求めて」と題して講演されました。

上市場

大原 俊秀

松尾多勢子の研究で有名な市村威成氏は「多勢子が上洛をした当時の京都は、志士、浪人が雲集し、幕府の圧力と拮抗し、双方の暗闘は天誅、虐殺入り混じって無秩序状態に陥っていた。そこへ男勝りの女勤皇家が、一日も早い倒幕成就を夢見て、京都に単身飛び込んだ」と書いておられます。それは「強い意志で迷うことなく行動する女丈夫を創作したかったからだ」と青木先生は述べられました。また先生は、多勢子の旅は「討幕実践の旅」ではなく、「憧れの聖地京都を目標一杯楽しんじゃおう旅」であったと、独自の論を展開されました。一人で上洛すること自身、当時としては、考えられない決断でした。「見たいと思うものは全て見たい。今を逃したらチャンスはないかも」と迷わず行

動できるのが彼女の魅力です。その彼女の行動力が、そこで会えるはずのない立場の人々に会い、京都御所等にも招かれるという結果に結びつきます。また、長州藩の志士たちとしっかり人脈をつくり、この人脈が晩年まで続きます。京都の毎日は、農家出身の「ばあさま」としては「何でも見ちゃえ、楽しんじゃえ」の気持ちでネットワークを広げていきました。「女丈夫」でもなく、「勤皇家」でもなく、一人の魅力的な人間として受け入れられたのでした。

今までは松尾多勢子は勤皇派で「討幕」目的で上洛にむかっただかと思っただけです。この講演を聴いて、和歌を学びに、また憧れの京都を見たい、楽しみたい気持ちもあつたようなので、とても親しみを感じるようになりました。

飯田下伊那だけでも、桜の名所がたくさんあるのに、開花の知らせを聞くと、毎年どこかへ出かけては、楽しんでいきます。しかしながら、桜の開花期間は一週間程度と短いので、行けても一、二箇所です。昨年は、鈴岡城址公園と松尾城址公園に行きました。そして、毎年必ず見に行くのが、河野の河川敷グラウンド近くにある、桜堤公園です。ここには約二十本の桜が植えられています。時期になると一斉に咲く桜が、いつ見ても見事で感動します。公園も手入れされているので、管理してくださっている方に感謝しています。

冬季レクリエーション大会

六チームで白熱のたたかい

ボッチャ開催

公民館主事 丸山 美香

二月十八日(日)に体育協会、スポーツ推進委員、公民館の三者共催による冬季レクリエーション大会が行われました。種目はボッチャです。ボッチャとはパラリンピックの正式種目でもともと重度の脳性麻痺等で運動能力に障害がある人向けに考案されたスポーツで、ジャックボールという

白いボールを投げ、それと近づくゲームです。今大会には六チームの参加がありました。第一分館、中平子供会、サロソ佐原、公民館学習会の参加者、また個人で申し込んでいた方々でチームを作りました。ボッチャはこのような年齢、性別関係なくみんなで一緒に楽しめるゲームなのです。

試合は六チームが総当たりで戦ったため、どのチームも五試合したことになりました。一試合四エンドで行い、何回も試合を重ねていくと、どのチームも上達していく、白いボールにたど近づくだけでなく、投げ場所や投げ方を工夫していました。試合の中には、ジャックボールからメジャーで測らないとどちが近いかわからない接戦も多く、最後の一投が勝

敗を分ける緊迫した試合もあり、大いに盛り上がりました。ボッチャの本来のコートの広さは、六メートル×十二・五メートルの広さで行いますが、今回はその半分のコートで行いました。また、投げる枠(スローイングボックス)も二枠でつくりました。このようにコートに合わせたり、コートづくりを簡略化しても行えるスポーツです。ボッチャの

(松尾くさる)



公民館報『とよおか』
五大ニュースをさかのぼる

（二）昭和42年

昭和42年は南保育所の完成や選挙、農業の話題が上位を占めた。

昭和42年(1967年)の五大ニュース 総投票数540票		
1	南保育所完成	83票
2	三石氏退き唐沢村長登場	66票
3	激戦だった村議選	57票
3	米と蚕の大豊作	57票
5	ニューカッスル病発生	56票

①村内7か所で運営されていた保育所が南北2カ所に統合された。北保育所は先に設置されていた。南保育所も認可保育園となり国や自治体から運営費を受けられるようになった。それまで保育所は各区に設置され、4月から10月までの農繁期のみの季節保育だった。運営費は区の負担で、保母は1年ごとの契約のため立場が不安定だった。この後は保母も村職員となった。なお「保育士」の名称は1999年以降。

②豊丘村発足以来、3期12回、選挙区は区の負担で、保母は1年ごとの契約のため立場が不安定だった。この後は保母も村職員となった。なお「保育士」の名称は1999年以降。

年村長を務めた三石善雄氏から唐沢卓雄氏に無投票でバトンタッチ。唐沢氏は傷痍軍人で片手を失っていた。4期16年の在任中、農業立村を目指し農業構造改善事業、果樹団地の造成などに力を入れた。仕事熱心で宴席後も役場に顔を出していたという。

経験したがこの年は大豊作。稲作は146%、養蚕は121%の増収。果樹では梨、りんご、桃、梅、柿がいずれも同程度の収量アップ。畜産も酪農、養豚、肉牛で成績がよかった。⑤ニューカッスル病は鳥の法定伝染病で致死率が高く、ニワトリなどの家さん飼育で恐れられている。11月に河野北垣外の養鶏農家で飯伊地区初の発生が確認され大騒ぎとなったが1カ月弱で終息。当時、自給用にニワトリ、ウサギ、ヤギ、綿羊を飼う家が多かった。役場に「迷い七面鳥」の通報があったこともある。

初めて20%を割る「核家族」の呼び名、広まる「ミニスカート大流行」テレビ受信契約数、2000万を突破
★ヒット曲
「知りたくないの」菅原洋一／「小指の思い出」伊東ゆかり／「真つ赤な太陽」美空ひばり

第7分館 料理教室
そば打ち体験
そば打ちの会 片桐忠彦

第七分館の料理教室が二月十八日（日）に壬生沢福島集落拠点施設で行われました。当分館の料理教室は何十年も続いている事業で、役員はその内容を決めるのに大変苦労されているようです。今回は「そば打ち体験」とのことで、私どもの「そば打ちの会」に、協力依頼をいただきました。

当日は役員、そばの会員が午前八時に集合し、すでに二八に合せた「そば粉」の小分けや、道具の準備を行いました。



た。最後天気も良く、外で試食を行い昼過ぎに解散となりました。

初めてのボーナスで念願のステレオを購入した。早速買ったレコードがアリスのアルバム（LP）「アリスV」だった。

昨年十月、アリスのリーダーでシンガーソングライターだった谷村新司が亡くなった。谷村のソロ歌手としての代表曲の一つが『昴』。壮大なメロディと詞が悠久の命の流れを想起させる名曲である（アルバム『昴』も買った）。アジア圏で「北国の春」と並んで著名な曲という。中国でも多くの人に知られ、二〇一〇年の上海万博では開幕式に本人の歌唱で披露された。

『昴』は好きな歌でよく口ずさむが、カラオケ等人前で歌ったことはない。歌いたいけれど歌えない歌の一つである。楽曲があまりにも壮大で朗々と歌う度量がなく、照れが先立ちしばかってしまうのだ。

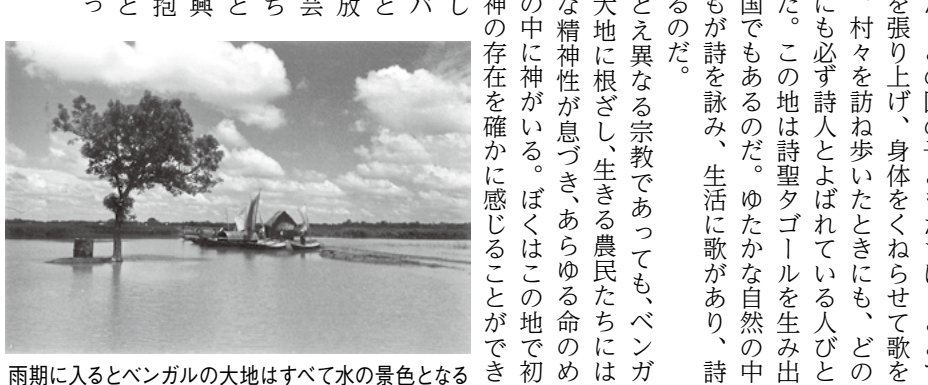
『昴』は好きな歌でよく口ずさむが、カラオケ等人前で歌ったことはない。歌いたいけれど歌えない歌の一つである。楽曲があまりにも壮大で朗々と歌う度量がなく、照れが先立ちしばかってしまうのだ。

『昴』は好きな歌でよく口ずさむが、カラオケ等人前で歌ったことはない。歌いたいけれど歌えない歌の一つである。楽曲があまりにも壮大で朗々と歌う度量がなく、照れが先立ちしばかってしまうのだ。

『昴』は好きな歌でよく口ずさむが、カラオケ等人前で歌ったことはない。歌いたいけれど歌えない歌の一つである。楽曲があまりにも壮大で朗々と歌う度量がなく、照れが先立ちしばかってしまうのだ。

『昴』は好きな歌でよく口ずさむが、カラオケ等人前で歌ったことはない。歌いたいけれど歌えない歌の一つである。楽曲があまりにも壮大で朗々と歌う度量がなく、照れが先立ちしばかってしまうのだ。

『昴』は好きな歌でよく口ずさむが、カラオケ等人前で歌ったことはない。歌いたいけれど歌えない歌の一つである。楽曲があまりにも壮大で朗々と歌う度量がなく、照れが先立ちしばかってしまうのだ。



雨期に入るとベンガルの大池はすべて水の景色となる

こちら資料館 240
多勢子愛用の硯箱

去る一月末、大鹿村の前島正介氏より「松尾多勢子愛用の硯箱」(写真)を寄

贈いただきました。氏の御祖母様が、松尾家より前島家に嫁ぐ時、松尾家の御祖母様より贈られた品とのことで、豊丘村で多勢子の遺品と一緒に保管して欲しいとのご希望でした。

硯箱は引き出し付きのしつかりした造りで、蓋に螺鈿細工の絵が施された立派なものです。収納用に使われていたという桐箱に納められていて、その桐箱の蓋

の内側に次のような由緒書きがありました。
『是れ曾祖母正五位松尾多勢子愛用の硯箱にして結婚のとき祖母より記念として賜りたるもの實に我が終生の至寶なり仍てここに由来をします 前島節子』

前島節子とは、松尾家系譜によれば多勢子の孫である千振の長女(珍臣の姉)のことであり、この硯箱を持たせた祖母とは、多勢子の長男誠の妻たみ子のことです。また、大鹿の前島家には、節子の叔母たず(千振の妹)も嫁いでおり、二代続いての同じ家同士の縁組でした。(昔はよくあったことなのでしょう。)

資料館では今、この由緒ある硯箱を二階の「多勢子コーナー」で常設展示品の一つとして公開しています。自分の娘の家に孫娘を嫁がせる祖母たみ子の並々ならぬ気持が想像される逸品です。是非この機会にご覧いただきますようお願いいたします。

『世界の美しい鳥』
上田恵介(監修)
笠原里恵(監修)
パイインターナショナル
驚や鷹、コンドルやハシビロコウなど、世界の猛禽類・怪鳥の、勇猛で凛々しい姿が楽しめる写真集です。大空を優雅に舞う姿、凛としてたえずむ姿、仲間

私が三歳のとき(明治二十九年)、母の生家に伴われていく途中、足浮川の橋上より見た記憶で、河川敷をトロッコで先材が運搬されておりました。これは上流の千岩洞の岩を割り田村堤防を作っていたものです。時たま脱線しては後車の人と集まり積みなおしていたことが今でも脳裏にあります。

その工事のことをその後父より聞きましたが、延長九十間(河野との連合堤防三分の二負担)で工事中たびたびの水害に見舞われ、およそ三町歩ほどは減反したとのこと。当時県下でも

模範工事と言われていたが、何分にもたびたびの水害で工事費がかさみ、喜萬円講を設立して負担にあつたとのこと。当時、組合員五十名以下で、土地代より工事負担金の方が多く要したそうです。工事は予定より遅れ、田村区民総出動を願ひ春季祭典も延期したとのことでありました。

その後明治三十六年、大正十二年、昭和三年、同八年と計五回にわたり工事がありました。全線完成の記念に堤防に桜を植樹しましたがたびたびの災害により伐木し、現在明神橋の上下に一部残っています。

最初の築堤工事に使用したトロッコ車輪が記念として田村明神の土蔵に保管されておりましたが、昭和十五年処分いたしました。追記
三六災害のときは幸いに本流が天竜川の中央を通ったため被害はありませんでしたが、支流の芦部川堤防の決壊により土砂流入、冠水等あり居宅などが浸水しみな役場まで避難いたしました。

昭和十三年七月五日、連日の降雨により天竜川が増水、連合堤防が決壊、次に田村堤防上流が突然決壊し始めました。現在の如くセメント工事ではないため消防団のほか組合員および隣接諸氏が防災に努められましたが流出二反歩、冠水田二十一町歩、堤防決壊二百四十反、床上浸水等もありました。幸いに人畜に被害はありませんでしたが、翌日より総出動で応急工

事をし使用竹籠二百七十九本、経費千八百九十九円八十銭(当時日貨七十銭)でした。同年冬より飯田木下組により工事が進められ、工事の日賃も一円となりみな喜んで出勞しました。
十五年一月十五日に竣工式が挙行されました。特筆すべきは支那事変が始まって出征された南市場の下沢定一さんより遠い彼の地から見舞状と金一封を送付督励され感激いたしました。

田村堤防は防災築堤に重点を置いていたので昭和三十五年までは田村堤防組合と称していましたが以後新田組合と改めました。同四十二年に築堤記念碑を建立いたしました。行政上区が管理するのが本意と思いい四十八年三月、田村区に委譲し現在に至ります。
(豊丘村民話集・第三集
〔昭和五十三年〕より)
文責：壬生雅穂

過去の思い出
福沢源一

公民館登録グループ活動紹介 第24回
楽しくカラオケを歌う会
EMTODOKU(エム・ティ・ドク)ミュージック会 小杉山勝彦

カラオケを通して、全会員との交流を深めるのが目的です。年一回程度の大発表会を設けており、それに向けて月一回程度の定例会、練習で前進していくのですが、それぞれの個性を重んじて自分の持ち味を十分発揮し、正しい発声法を学び大きな声で前進します。メンバーは現在のところ、北は諏訪方面から南は飯田方面ですがもともとと、広げれば良いかなあと

思っております。若い方から年配の方までの幅広い皆様の集団です。月の最終の日曜日に「ゆめあるて」の大ホールで練習を行なっておりますので、よろしかったらどうぞお気軽にお出掛けに見に来て下さい。飲食店、カラオケ店と同じ様にどんな曲にも対応出来る設備でプロのオ

ペレーターの操作にて行なっておりますので安心です。来たる五月二十六日(日曜)に発表会を予定しております。

寒菊や傘寿を待たず旅立てり
春嵐向かい風へと背を伸ばす
山影のせまりし山家悴かめり
夫と我には特別のこの雑煮
福豆の終の一粒夫癒やす
鉄を切る寒の心へ火花散る
暁光の雪真白に駒ヶ岳

天竜川の空を焦がしてどんど果つ
母家凍つビシリビシリと梁鳴らす
春の雨ファミングと聞く城下街

矢島千勢子
池田 美和
細井 恵子

とよおか100年前
87
『豊丘村民話集』より

俳句
短歌

片桐 洋子
森田 恵子
木下 眞水
松岡 照子
宮下 純子
林 恵美子
丸山 時子

寒鯉や耳そばだつるかの眼
千の絵馬千の願ひに春立ちぬ
湯たんぽにお湯を注げば「これじようご」四歳の孫娘その名覚える
どうしてなのこんなに地しんが起ころとは地球のふしきもつと知りたい
年明けに能登で大きな地震あり被災の人を案ずるばかり
卒寿越し妻を看取りてひとりなり これが最後の年賀状とは
正月の寒風の中堤防を歩くあるくは初春の一步
お菜漬けと沢庵暮れには漬け上がる大トリ務めるおせちの後の
演奏でクラリネットの曲「ミステイ」重なるピアノ霧うつしだし
夕焼けの輝きのこる山の端をくまどる色のさむぎむとして
「春夏冬中」の看板下がる居酒屋に逝きにし朋の陰膳に注ぐ
福澤 龜人

『眠れなくなるほど面白い
図解 建築の話』
スタジオワーク(著)
日本文芸社
日本の建築にまつわる文化や歴史、言葉の由来などをイラストとともにわかりやすく解説しています。「うだつが上がる」の「うだつ」は屋根の防火設備、寺院の伽藍は配置で時代がわかる、電車のシートや長手盆は腰幅三十六センチが基本、などなど。「建築」と「暮らしの文化」との深い関わりを知ること、建築の見方や楽しみ方が広がるでしょう。

『豊丘村川柳クラブ豊柳会』
▼課題「登」 福沢勝美 選
草取れば登るほどある草の山 安田 喜子
注意する登り坂より下り坂 林 もも子
手を取って共に登った長い坂 西元 峯子
軸吟：元旦の登山雲無く初日の出
▼課題「中」 互選
せがむ子をスマホ夢中の親は無視 山本 義彦
世界中平和を望む民がいる 原 美風
▼自由吟 山本義彦 選
必要の度合いで耳が聴き分けて 小澤 凜
被災地に無情風雪能登の空 福沢 勝美
政界も大人災で大騒ぎ 市沢 照子
軸吟：AIにまかせて頭空になり

「柳」

市沢 照子

～シリーズ～ 豊丘の自然
No.242
チャコウラナメクジ
（コウラナメクジ科）



春は三寒四温の繰り返しで、ゆっくり進んでいくものだと思っていたが、最近では寒暖差が大きくて、冬から夏、そして冬。さぞかし自然界の動植物は困惑していることだろう。

さて、そんな二月。テングチョウ、チャコウラナメクジ、クサギカメムシ、モンキチョウ、オツネトンボを確認した。

そんな中からチャコウラナメクジを紹介する。実は、

本種は昨年の12/16に確認し、もしかすると越冬するかもしれないと思っただが、その時、越冬しないと思われるトンボ、チョウ、カマキリ（マユタテアカネ、ヒメアカネ、ミヤマアカネ、コノシメトンボ、キトンボ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、ヒメアカタテハ、モンキチョウ、オオカマキリ）がいたので「越冬」は控えたが、今回の確認で答えは出た。ただナメクジに対する季節感はずれた。

（山田 拓）

春は三寒四温の繰り返しで、ゆっくり進んでいくものだと思っていたが、最近では寒暖差が大きくて、冬から夏、そして冬。さぞかし自然界の動植物は困惑していることだろう。

さて、そんな二月。テングチョウ、チャコウラナメクジ、クサギカメムシ、モンキチョウ、オツネトンボを確認した。

そんな中からチャコウラナメクジを紹介する。実は、

第二分館の役員担当を務めてから二年を迎える最後の行事、二月に行われたボウリング大会で男性一位の表彰をいただくことができました。参加していただきありがとうございました。

今回は、コロナ感染が終息してきている時期になり、しばらく開催できなかった大会に、皆さんが、非常に良い笑顔で周囲と親睦を深めて、とても充実したひと時を過ごすことができました。次回参加する際は、HDCPを申告するようにします。

普段お話しをする機会がない方とお話しができた、ストライクがでた時はハイタッチをしたり、息子と二人だけの貴重な時間を過ごせたり、参加して本当に良かったと思います。ありがとうございました。是非参加したいと思っています。

とよおかミニバスケット

飯伊ミニバス優勝大会
とよおかチーム2部門・3位入賞
とよおかミニバスケットボール教室代表 仲田正徳

今年度、飯伊地区ミニバス連盟主催最後の大会となる飯伊ミニバス優勝大会に参加しました。本大会はコロナ禍以前は、上郷優勝大会と、松川優勝大会と、年間通して2大会行われておりましたが昨今リーグ戦も行われる中で大会運営も含めて過密日程となってきた背景があり、二つの大会を併合し飯伊ミニバス優勝大会という統一大会となり開催された大会となります。

ボール教室（以下：当教室）も男子は二部門にエントリーしました。

いぬき見事三位入賞となりました。目標としていた両部門ペア優勝とはならなかったものの、本当に彼らはよく頑張ったと思います。日頃の練習の成果をだしました。

【勳力協心】をスローガンに掲げ日々練習に励んでおりますがまさに今大会はスローガン通り一致団結し、力を出すことができた大会となりました。

最後にりましたが、日頃子ども達の送迎・応援をしてくださる保護者の皆様、日々仕事終わりに指導に携わって頂けるコーチの皆様、ミニバスケットの環境を整備くださった豊丘村関係者の皆様方にこの場をおかりし感謝を申し上げる次第です。

役員最後の締め切り
山田 吉澤敏治

第二分館の役員担当を務めてから二年を迎える最後の行事、二月に行われたボウリング大会で男性一位の表彰をいただくことができました。参加していただきありがとうございました。

今回は、コロナ感染が終息してきている時期になり、しばらく開催できなかった大会に、皆さんが、非常に良い笑顔で周囲と親睦を深めて、とても充実したひと時を過ごすことができました。次回参加する際は、HDCPを申告するようにします。

普段お話しをする機会がない方とお話しができた、ストライクがでた時はハイタッチをしたり、息子と二人だけの貴重な時間を過ごせたり、参加して本当に良かったと思います。ありがとうございました。是非参加したいと思っています。

とよおかミニバスケット

飯伊ミニバス優勝大会
とよおかチーム2部門・3位入賞
とよおかミニバスケットボール教室代表 仲田正徳

今年度、飯伊地区ミニバス連盟主催最後の大会となる飯伊ミニバス優勝大会に参加しました。本大会はコロナ禍以前は、上郷優勝大会と、松川優勝大会と、年間通して2大会行われておりましたが昨今リーグ戦も行われる中で大会運営も含めて過密日程となってきた背景があり、二つの大会を併合し飯伊ミニバス優勝大会という統一大会となり開催された大会となります。

ボール教室（以下：当教室）も男子は二部門にエントリーしました。

いぬき見事三位入賞となりました。目標としていた両部門ペア優勝とはならなかったものの、本当に彼らはよく頑張ったと思います。日頃の練習の成果をだしました。

【勳力協心】をスローガンに掲げ日々練習に励んでおりますがまさに今大会はスローガン通り一致団結し、力を出すことができた大会となりました。

第2分館
ボウリング大会
笑顔で親睦



飯伊ミニバス優勝大会
とよおかチーム2部門・3位入賞
とよおかミニバスケットボール教室代表 仲田正徳

今年度、飯伊地区ミニバス連盟主催最後の大会となる飯伊ミニバス優勝大会に参加しました。本大会はコロナ禍以前は、上郷優勝大会と、松川優勝大会と、年間通して2大会行われておりましたが昨今リーグ戦も行われる中で大会運営も含めて過密日程となってきた背景があり、二つの大会を併合し飯伊ミニバス優勝大会という統一大会となり開催された大会となります。

ボール教室（以下：当教室）も男子は二部門にエントリーしました。

いぬき見事三位入賞となりました。目標としていた両部門ペア優勝とはならなかったものの、本当に彼らはよく頑張ったと思います。日頃の練習の成果をだしました。

【勳力協心】をスローガンに掲げ日々練習に励んでおりますがまさに今大会はスローガン通り一致団結し、力を出すことができた大会となりました。

最後にりましたが、日頃子ども達の送迎・応援をしてくださる保護者の皆様、日々仕事終わりに指導に携わって頂けるコーチの皆様、ミニバスケットの環境を整備くださった豊丘村関係者の皆様方にこの場をおかりし感謝を申し上げる次第です。

最後にんですが、日頃子ども達の送迎・応援をしてくださる保護者の皆様、日々仕事終わりに指導に携わって頂けるコーチの皆様、ミニバスケットの環境を整備くださった豊丘村関係者の皆様方にこの場をおかりし感謝を申し上げる次第です。

ボウリング大会
城 日吉 歩



飯伊ミニバス優勝大会
とよおかチーム2部門・3位入賞
とよおかミニバスケットボール教室代表 仲田正徳

今年度、飯伊地区ミニバス連盟主催最後の大会となる飯伊ミニバス優勝大会に参加しました。本大会はコロナ禍以前は、上郷優勝大会と、松川優勝大会と、年間通して2大会行われておりましたが昨今リーグ戦も行われる中で大会運営も含めて過密日程となってきた背景があり、二つの大会を併合し飯伊ミニバス優勝大会という統一大会となり開催された大会となります。

ボール教室（以下：当教室）も男子は二部門にエントリーしました。

いぬき見事三位入賞となりました。目標としていた両部門ペア優勝とはならなかったものの、本当に彼らはよく頑張ったと思います。日頃の練習の成果をだしました。

【勳力協心】をスローガンに掲げ日々練習に励んでおりますがまさに今大会はスローガン通り一致団結し、力を出すことができた大会となりました。

最後にんですが、日頃子ども達の送迎・応援をしてくださる保護者の皆様、日々仕事終わりに指導に携わって頂けるコーチの皆様、ミニバスケットの環境を整備くださった豊丘村関係者の皆様方にこの場をおかりし感謝を申し上げる次第です。

最後にんですが、日頃子ども達の送迎・応援をしてくださる保護者の皆様、日々仕事終わりに指導に携わって頂けるコーチの皆様、ミニバスケットの環境を整備くださった豊丘村関係者の皆様方にこの場をおかりし感謝を申し上げる次第です。

コンデジ修行
風景サクラ物語り

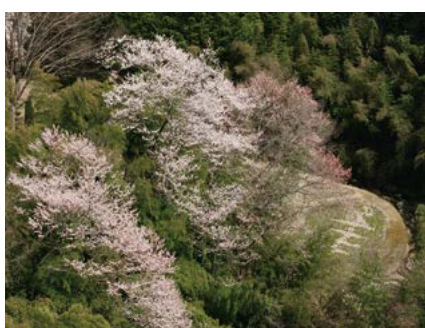


最近の流行はコンパクトデジタル使いこなして写真力アップ！

三月、四月は日本人なら桜をこよなく愛する傾向にあります。やはりこの時期は「桜」を取り上げなければ、春が始まらない気がするので、今回は広い風景の中のサクラです。

●広いとは言ってもあまり遠くは桜ではありません。眼下の桜の木はあまり見かけませんが、これは天竜峡の紅葉橋から撮影しました。開花時期が良ければとても絵になります。ポイント

トは木の周辺を極力整理して樹木の向いている方向を少し開けることでバランスが取れます。



早朝より出かけた三穂の残月と桜は、桜の木と相反する位置に月を配置しダイナミックシンメトリでの構図としました。この手法は主役と脇役をひとつに納める高度な表現とな



す。獅子舞であったり屋台囃子も祭りの雰囲気は出せますが、祭り旗も欠かせない存在です。旗文字を桜花で少し隠すことで、書かれた文字が気になり見たいという欲望が抑えられなくなるのです。隠すという行為こそ写真には大切な技法となります。最後は『花筏』



です。散って池などに落ちた花びらは皆がこぞって作品となっていますが、枝垂れた枝にピンと作りました。

フォトマスター級 宮下正弘